

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第51号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

国際医療センター スタート

大阪日本の 海外患者受け入れ 医療を発信

世界的研究の拠点

海外から質の高い安全な医療を求めて来日する患者さんをスムーズに受け入れられるよう、4月から国際医療センターをスタートさせました。(英語では「Center for Global Health (CGH)」と表記されています。)

これまでも、心臓血管外科にはサウジアラビアの患者さんが来日し、未来医療開発部で開発した心筋シートによって、回復不能と考えられていた心臓の蘇生治療を受けたり、スポーツ選手の治療で実績のある整形外科では、韓国や台湾のプロ野球選手らが治療を受けるなど、年間20〜30人程度の外国人患者さんを、診療科が個別に対応してきました。外国人患者さんは、本院スタッフの親切な対応に大変満足して帰国されることもあれば、言葉の壁や文化の違いなどにより、治療や入院生活、医療費の支払いなどで不便を感じられるケースもあります。快適な療養生活を送っていたり、宗教上禁止されている事項などを学ぶことも重要な課題ですが、これらの問題は、医師や看護師などのスタッフだけで解決できるものではありません。幸いにして大阪大学には、外国語学部、言語文化研究科、人間科学研究科、国際公共政策研究科など優秀な人材を育成し輩出する部署があります。例えば、医療通訳の養成をテーマに掲げている人間科学研究所の学生には、本院を実践、研究の場として提供し、これま

医療の質・安全に関する 全国センター機能

中央クオリティマネジメント部



医療安全センター機能を支える本院の職員

本院の中央クオリティマネジメント部は12年前、患者さんに安心、安全な医療を提供するための組織「クオリティマネジメント部」としてスタートしました。その後、全国の大学病

院では初めて「医療の質・安全」を専門に担当する部門として文部科学省から認められ、名称も「中央クオリティマネジメント部」となりました。「中央」には全国の大学病院の医療安全を担うセンターとして機能する意味合いが含まれています。平成14年から全国45国立大学附属病院の「医療安全管理協議会」の事務局(現会長大学病院も兼務)を担当しています。医療安全管理協議会では、医療安全管理体制担当も担っており、毎年、42病院の担当者複数名がチームになって他病院に出向いて行う医療安全・質向上のための相互チェックについて、



でボランティアに頼っていた通訳スタッフの養成を図ることも可能になります。これらにより、海外からの患者受け入れ、治療費・補償、医療通訳、食事、の提供が実現し、国際医療センターとして機能します。

「患者さんが安心して医療を受けられるように」という思いで、国際医療センターの設立に尽力しています。

平成25年度 「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

平成25年度の病院教授は下記の「28名」です。

整理番号	診療科等名	氏名	職名
01	腎臓内科	猪阪善隆	大阪大学准教授
02	免疫・アレルギー内科	岡芳弘	大阪大学講師
03	血液・腫瘍内科	織谷健司	大阪大学准教授
04	消化器外科	永野浩昭	大阪大学准教授
05	小児外科	白井規朗	大阪大学准教授
06	眼科	瓶井資弘	大阪大学准教授
07	整形外科	岩崎幹季	大阪大学准教授
08	神経内科・脳卒中科	北川一夫	大阪大学准教授
09	麻酔科	林行雄	大阪大学准教授
10	小児科	酒井規夫	大阪大学准教授
11	放射線診断科	金東石	大阪大学准教授
12	核医学診療科	下瀬川恵久	大阪大学准教授
13	臨床検査部	日高洋	大阪大学准教授
14	手術部	南正人	大阪大学准教授
15	輸血部	富山佳昭	大阪大学講師
16	総合診療部	笠原彰紀	大阪大学准教授
17	未来医療開発部	名井陽	大阪大学准教授
18	中央クオリティマネジメント部	中島和江	大阪大学准教授
19	MEサービス部	高階雅紀	大阪大学講師
20	栄養マネジメント部	和佐勝史	大阪大学准教授
21	化学療法部	水木満央	大阪大学准教授
22	心臓血管外科	戸田宏一	大阪大学准教授
23	消化器外科	山本浩文	大阪大学准教授
24	乳腺・内分泌外科	金昇晋	大阪大学准教授
25	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	北原直哉	大阪大学准教授
26	脳神経外科	橋本直晃	大阪大学准教授
27	泌尿器科	辻村晃	大阪大学准教授
28	高度救命救急センター	小倉裕司	大阪大学准教授

乳腺・内分泌外科

遺伝性乳がん

― 遺伝子診断と予防 ―

米国の女優、アンジー・リーナ・ジョリーさんが乳がん、卵巣がんの発症リスクを大幅に上昇させる乳がん遺伝子に異常があり、乳がん予防のために両側乳房の切除(乳房を切除してしまふ)ではなく、乳房の内部の乳腺組織をすべて取り去り皮膚と乳頭を残す手術(乳房再建手術も実施)を受けたというニュースによって、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)が注目されています。

日本では、乳がん遺伝子に異常がある場合の予防的乳房切除については、殆ど実施例がありません。当科でもこの問題にどのように対応するか検討してきました。

また、乳がんをまだ発症していない女性に對しても同様に、両側の乳房に對して上述のような精密な検査を実施します(この様な方針で対応することが本年3月に医学倫理委員会で承認されました)。

更に、卵巣がんの予防に關しては、希望があれば当院の産科・婦人科へ紹介させて頂きま

ました。現実的な対応としてはまず、遺伝子異常の判明した患者さんは對側乳房の乳がん発症リスクが高いので通常の触診、マンモグラフィー、エコー検査に加えて、MRIによる検査を追加で実施します。

また、乳がんをまだ発症していない女性に對しても同様に、両側の乳房に對して上述のような精密な検査を実施します(この様な方針で対応することが本年3月に医学倫理委員会で承認されました)。

更に、卵巣がんの予防に關しては、希望があれば当院の産科・婦人科へ紹介させて頂きま

は、患者さんだけではなく家族全員に係わる問題でもありますので、家族の方ともよく相談

したうえで検査を受けるかどうか判断されることをお勧めします。より詳しいHBOC

の説明を希望される患者さんは、乳腺・内分泌外科の主診医にご相談ください。

内視鏡センター

患者さんの体に負担の少ない、内視鏡による検査・治療件数は、利用する診療科が多岐にわたっていることもあり、本院では年々増加

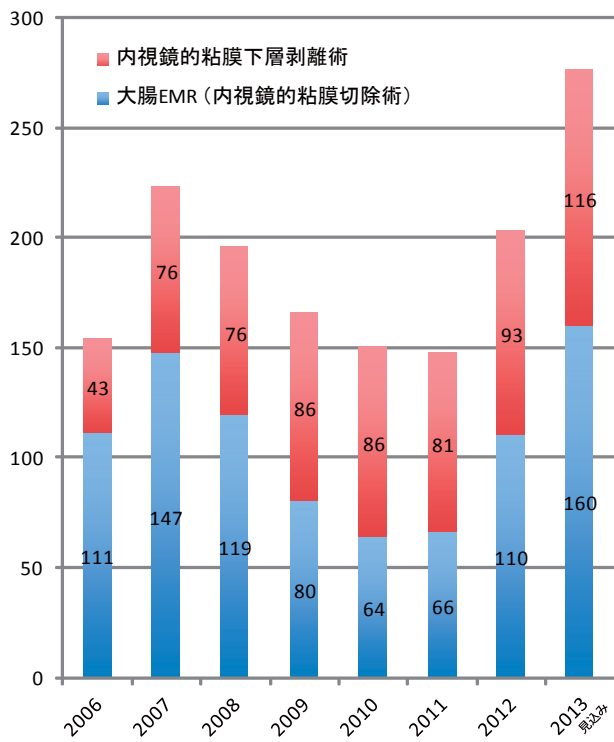
していきます(グラフ参照)。このような状況の中、昨年度、安全性を重視し、プライバシーを考慮したレイアウトにするため内視鏡セン

ター内の改築拡充工事を行い、本年度からは洗浄履歴管理システムを導入しました。これによりセンターでは、多様化、増加するニーズに對しても、効率的で安全な検査・治療が行えるようにしています。

内視鏡は胃がん、大腸がんなどの消化器系がん、肺がんなどの呼

検査、治療など一括管理

安全性管理徹底 効率化・合理化



内視鏡は、消化管や気管など体内に直接挿入することから、細菌やウイルスによる感染を防ぐために、衛生管理には細心の注意が必要です。使用後は、専門的な洗浄を行います。さらに、定期的に感染制御部によるモニタリング調査も行っており、十分洗浄されているかどうかを厳重にチェックしています。

センター内だけではなく、各診療科や手術

吸器系がんの精密検査に使われ、脾臓や胆のうなどの病気の検査にも必要な機器です。また、治療に關しても早期の胃がん、食道がんや大腸がんの病巣の切除にも内視鏡が使われることが多くなっています。さらに、高度救命救急センターやICUでの吐血・下血などの消化管出血の時にも不可欠な検査・治療機器です。

にも、迅速に内視鏡を特定できるとともに、使用履歴も明確になり、追跡調査ができます。

昨年、内視鏡センターを拡充したことにより、検査及び治療待ちの人数を短縮することができ、一部の患者さんには鎮静下内視鏡検査も可能となりましたが、より一層効率的に運用することで患者さんのさらなる利便を図りたいと考えています。

新診療科長等ごあいさつ



●呼吸器内科長

きじま たかし
木島 貴志

呼吸器内科長に就任致しました。全悪性腫瘍死の第1位である肺がん、「取り残された生活習慣病」と言われ、近い将来全死因の第3位になると予想されるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)は、増加の一途を辿っています。当科では、他にも間質性肺炎や感染症をはじめ多岐にわたる難治性疾患や肺移植患者さんの診療にも、積極的に取り組んでいます。呼吸器センターも開設1年を過ぎ、運営も軌道に乗ってきました。外科及びリハビリテーション部と密接な連携を図りながら、より効率的かつ統合的な診療を目指してまいりますので、宜しくお願い致します。(平成25年4月16日就任)

癒しの音色 七夕コンサート

七夕コンサートが、7月5日に外来棟エントランスホールで開催されました。第一部は「ひこうき雲」によるトーンチャイムの演奏で、癒しの音色に魅了されました。「たなばた」「ふるさと」の演奏では、ボランティアさんと一緒に歌い、おおいに盛り上がりました。第二部は、池田市の太鼓集団「疾風(かぜ)」の皆さんで、力強い太鼓の乱打に始まり=写真=、横笛や鉦(かね)・太鼓が加わり、子供達の元気な踊りで、集まった患者さんらに楽しい一時を過ごしていただきました。



「看護の日記念行事2013」を開催

「看護の日」(5月12日)にちなみ5月24~31日に「看護の日記念行事2013」を開催しました。5月28日には高校生7名が「ふれあい看護体験」に参加。各病棟では看護師の指導のもと、洗髪、清拭、血圧測定、配膳などを体験しました。

また、エントランスホールでは患者さんが作成した川柳や絵画、地域住民のキルト作品、指編み作品や刀根山支援学校児童・生徒の作品などを展示した「看護の日の作品展」を開催しました。30日には指を使ってストールや帽子などを編む「指編み体験」を行い=写真=、参加者には「入院中でも簡単にできる」「入院中の母に編みたい」と、大変喜んでいただけました。

「看護の日記念行事2013」を開催



「看護の日」(5月12日)にちなみ5月24~31日に「看護の日記念行事2013」を開催しました。5月28日には高校生7名が「ふれあい看護体験」に参加。各病棟では看護師の指導のもと、洗髪、清拭、血圧測定、配膳などを体験しました。

また、エントランスホールでは患者さんが作成した川柳や絵画、地域住民のキルト作品、指編み作品や刀根山支援学校児童・生徒の作品などを展示した「看護の日の作品展」を開催しました。30日には指を使ってストールや帽子などを編む「指編み体験」を行い=写真=、参加者には「入院中でも簡単にできる」「入院中の母に編みたい」と、大変喜んでいただけました。

また、エントランスホールでは患者さんが作成した川柳や絵画、地域住民のキルト作品、指編み作品や刀根山支援学校児童・生徒の作品などを展示した「看護の日の作品展」を開催しました。30日には指を使ってストールや帽子などを編む「指編み体験」を行い=写真=、参加者には「入院中でも簡単にできる」「入院中の母に編みたい」と、大変喜んでいただけました。

材料部が「平成24年度新機械振興賞」受賞

三浦工業株式会社と本院が共同で開発した「医療用減圧煮沸式洗浄装置」が、我が国機械技術の向上と機械産業の振興に多大なる貢献をしたとして、この度、「新機械振興賞/機械振興協会会長賞」を受賞しました。

科学館を体験しよう! 出前サイエンスショー開催

6月20日、大阪国際文化協会主催のチャリティプログラムにより、本院小児医療センターに大阪市立科学館がやって来ました。院内学級及び小児医療センターの子供達一人一人に「偏光板」が配られ、大阪市立科学館の小野昌弘学芸員による「サイエンスショー」が始まると、偏光板を使った光の不思議に思わず歓声があがるなど、科学を身近に感じていただきました=写真=。



阪大病院を見学してみませんか

阪大病院では、大学病院を広く皆様に知っていただくために、病院見学会を下記のとおり開催いたします。普段は接することのできない場所の見学や最先端の医療に触れるチャンスですので、お気軽にご参加くださるようご案内いたします。

- 実施日時 9月25日(水) 14時~16時30分
- 募集期限 9月4日(水)必着
- 対象者 一般市民(成人、個人)
- 募集人員 15人
- 申込方法 はがき、FAXまたは電子メールにより氏名、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号を記入のうえ申し込み願います。(個人情報は、本見学会以外の目的には使用いたしません。)
- 見学場所 ドクターヘリ、未来医療開発部、内視鏡センター、薬剤部など。(※都合により、見学場所が変更になる場合があります。)
- 送付先(問合せ先): 〒565-0871 吹田市山田丘2-15 大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係 TEL 06(6879)5020,5021 FAX 06(6879)5019 (※FAXの場合は、頭に186をつけておかけください。)
- E-mail ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
- 決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をはがきでお知らせします。

ホスピタルミニニュース